

さくら湖自然環境フォーラム2017

日時：平成29年11月7日（火） 13:00～15:45
場所：さくら湖自然観察ステーション
主催：さくら湖自然環境フォーラム実行委員会
後援：福島民報社・福島民友新聞社・大滝根川流域生活排水対策推進協議会

開催主旨

三春町を含めた三春ダム流域の市町や三春ダム管理所では、小中学生を含む地域住民がこれらの環境について認識を深め、環境をとおして関係地域の自立的・持続的発展に寄与することを基本理念に、『さくら湖自然環境フォーラム』をダム運用直後の平成12年(2000年)から毎年開催してきました。これまでのフォーラムでは、水質、土地利用、動植物、外来魚などをテーマに議論し、広く意見を頂いてきました。

第18回目の平成29年度は、「『さくら湖』を知ろう ～ダム湖と周辺の生きものはなし～」をテーマに、湖沼等の魚・鳥・植物・昆虫等の生き物などとおして、『さくら湖』の特徴を皆さんと一緒に考えるとともに、地域で取り組まれている遺伝子を活用した水生昆虫に関する先進的な研究事例についても学びたいと思います。

プログラム

さくら湖自然環境フォーラム

開会のあいさつ さくら湖自然環境フォーラム実行委員会 会長 鈴木 義孝

【第1部】 研究報告・発表 13:05～14:10

(1) 『さくら湖の湖岸の生き物たち』 応用生態工学研究所 稲川 崇史 氏

『池沼に生息するヒメシロカゲロウ(カゲロウ目：ヒメシロカゲロウ科)の分布と生態』

福島大学理工学群共生システム理工学類環境システムマネジメント専攻
林 宏至朗 氏

(2) 『身近な水環境を調べ隊』 中妻小学校4年生のみなさん

『中郷の水環境～水生生物調査から～』 中郷小学校4年生のみなさん

14:10～14:20 休憩

【第2部】 基調講演 14:20～15:40

『ヒトの作った環境と野生のいきもの』

講師：弘前大学農学生命科学部生物学科教授(農学博士) 東 信行 氏

閉会のあいさつ さくら湖自然環境フォーラム実行委員会 副会長 菊池 祐光

基調講演

「ヒトの作った環境と野生のいきもの」

講師：弘前大学農学生命科学部生物学科 東 信行 氏 (農学博士) あずま のぶゆき



現在の研究分野

動物生態学、保全生物学
生態工学

コメント：生物は私たち人間が現れる以前から多種多様なものが地球上に現れ、絶滅を繰り返しながらも現在たくさんの種類が生息しています。私たちが普段見ている風景の中にいる生き物たちの多くは、「ヒトの作った環境」にうまく適応して生きています。そのしたたかな生き方を調べてみると、意外なことがわかります。

身近にある自然の中でどのようなことがおきていて、これから私たちがどのようにしていくべきかを考えなくてはならないことがたくさんあります。

このフォーラムでは魚を中心にそれを食べる鳥などの生態系のメンバーの生態と、今おきていること、これからどのようにしたら良いのか、一緒に考えたいと思います。そして特に魚という動物の身体を少し詳しく見てみましょう。

講師プロフィール

【経歴】

1962年 北海道空知郡生まれ

1994年 豊橋技術科学大学工学部建設工学系助手

1997年 弘前大学農学生命科学部生物生産科学科および生物学科
岩手大学大学院連合農学研究科(併任)
助教授～教授 現在に至る

専門：動物生態学、保全生物学、生態工学

【学会活動など】

日本魚類学会評議員

日本水産学会水産環境保全委員会委員

日本生態学会自然保護委員 など

【委員会など】

河川水辺の国勢調査アドバイザー：岩木川・馬淵川(国土交通省東北地方整備局)

青森県・岩手県環境影響評価審査会(青森県・岩手県)

小川原湖水環境検討委員会(国土交通省東北地方整備局)

東北農政局環境情報協議会(農林水産省東北農政局)

東北農政局再評価技術検討会(農林水産省東北農政局)

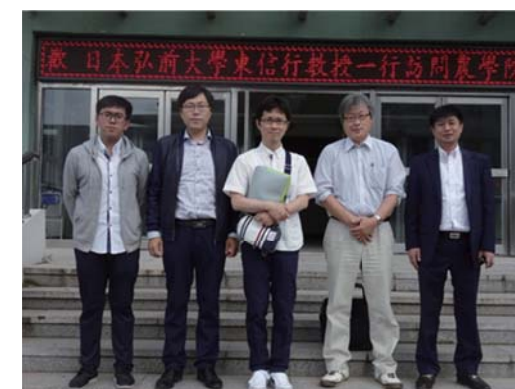
大河津分水路魚道検討委員会(国土交通省北陸地方整備事務所)

岩木川魚の棲みやすい川づくり(国土交通省東北地方整備局)

馬淵大堰魚道検討委員会(国土交通省東北地方整備局)

北海道新幹線事後環境影響評価アドバイザー(鉄道運輸機構)

東北生態系ネットワーク推進協議会(国土交通省)



右から2番目 中国延辺大学で